



こしがや

第4次 越谷市総合振興計画

基本構想(2011~2020年度)・後期基本計画(2016~2020年度)

概要版



水と緑と太陽に恵まれた

人と地域が支える

安全・安心・快適都市

ごあいさつ



本市では、平成23年に第4次総合振興計画を策定し、基本構想に定める将来像「水と緑と太陽に恵まれた 人と地域が支える安全・安心・快適都市」の実現に向け、様々な取り組みを進めてまいりました。

前期基本計画を策定してから5か年が経過する中、本市を取り巻く社会経済状況は大きく変化しております。それに伴い、人口減少・少子高齢化への対応をはじめ、人口急増期に整備した公共施設等の老朽化問題、竜巻や集中豪雨などの自然災害の発生による安全・安心な暮らしに対する意識の高まりなど行政ニーズは多様化しております。また、社会保障経費の増加などにより財政状況はより厳しさを増しており、限られた財源の中でこれまでの慣例にとられない抜本的な事業の見直しによる選択と集中が一層求められております。

このような状況を踏まえ、平成28年度から平成32年度までの5年間を計画期間とする後期基本計画を策定いたしました。

この計画では、前期基本計画における取り組みの成果や課題等を踏まえ、今後5年間に取り組むべき施策を体系的に整理しております。また、市民の皆様にとってもより分かりやすい計画とするため、分野ごとに目指すまちの姿を示すことといたしました。さらに、重点戦略として、5つのプロジェクトに取り組むこととしております。これらのプロジェクトを中心に各施策を着実に進め、市民一人ひとりが越谷に「住んでよかった」「住み続けたい」と誇れるまち、また多くの人が「訪れたい」と思える魅力的なまちを実現したいと考えております。

結びに、本計画の策定にあたり、地区まちづくり会議や市民懇談会、市民アンケート、パブリック・コメント等を通じて貴重なご意見をいただきました市民の皆様、越谷市総合振興計画審議会委員ならびに市議会議員の皆様には厚くお礼を申し上げますとともに、引き続き市政へのご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成28年4月

高橋 努

概要版 目次

基本構想	P.3 計画全体の流れ	本市を取り巻く社会経済情勢、まちづくりの理念と視点、将来像、まちづくりの目標について整理しています。
	P.5 人口と土地利用	今後10年間の人口の見通しと、都市構造、土地利用について整理しています。
	P.7 地区からのまちづくりの展開	市内13地区のまちづくりの将来像について整理しています。
後期基本計画	P.9 重点戦略	後期基本計画において重点的に取り組む施策について整理しています。
	P.12 分野別計画	後期基本計画において、各分野で取り組む施策について整理しています。

計画策定の主旨・特徴

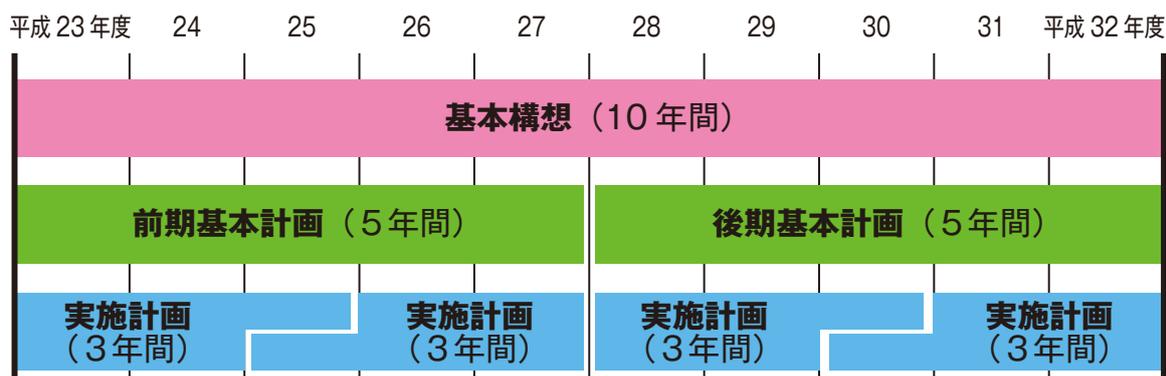
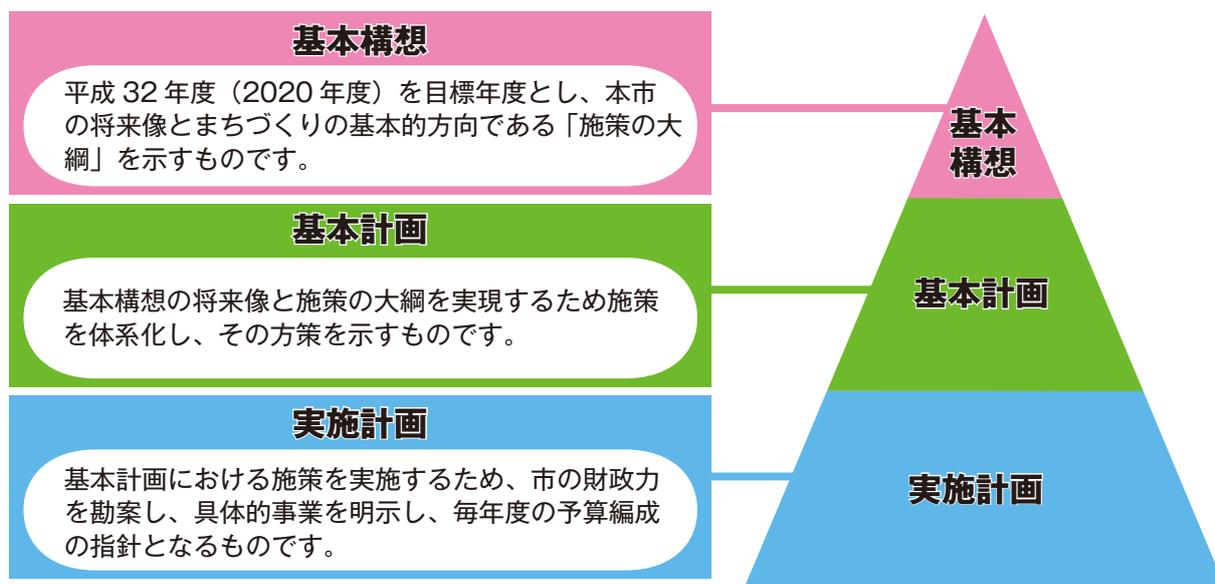
第4次越谷市総合振興計画は、越谷市のまちづくりを総合的かつ計画的に進めるためのすべての基本となる計画です。時代の潮流を的確に捉え、将来にわたり、市民が安全で安心して、いきいきと生活ができ、住みやすく、住み続けたいと実感できるまちづくりを目指し、その実現に向け、第4次越谷市総合振興計画を策定しました。

この計画は、3つの特徴を持っています。

- 1 越谷市自治基本条例を踏まえ、市民の計画策定への参加を得るとともに、市民ニーズを反映した計画です。
- 2 越谷市が行うすべての施策や事業の根拠となる最上位に位置する計画です。
- 3 十分な現状分析と将来予測により、市民が安全で安心して快適な生活を送ることのできる目標を設定し、その到達へ向け施策が体系化された、分かりやすく実現性のある計画です。

計画期間・構成

第4次越谷市総合振興計画は、平成23年度（2011年度）から平成32年度（2020年度）までの期間とします。また、この計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層で構成します。



計画全体の流れ(社会潮流～施策の大綱)

時代の流れと 新たな課題

越谷市を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。時代の流れを的確にとらえ、まちづくりを計画的に進める必要があります。

人口減少社会の到来と
少子高齢化の進行

地方分権の推進と
市民によるまちづくり

安全・安心志向
の高まり

環境意識の高まり

経済・産業構造の変化

まちづくりの 理念と視点

「人間尊重」と「市民主権」をまちづくりの基本理念とし、4つの視点からまちづくりを進めていきます。

まちづくりの理念

人間尊重

一人ひとりが人間として尊重され、「やさしさ」や「心の豊かさ」などの人間らしさに満ちた、ふれあい豊かなまちづくりを進めます。

市民主権

参加と協働による市民が主人公であるまちづくりを進めます。

まちづくりの視点



将来像

水と緑と太陽に恵まれた
人と地域が支える安全・安心・快適都市

環境との共生を願い、豊かな自然と美しい景観を大切にするとともに、多様性に富む人と地域に支えられた、安全で安心して快適に生活ができるまちづくりを目指し、本市の将来像を「水と緑と太陽に恵まれた 人と地域が支える安全・安心・快適都市」と位置づけました。

また、将来像を実現するため、次の6つのまちづくりの目標を定め、様々な取り組みにより、総合的で計画的なまちづくりを進めます。

6つのまちづくりの目標(施策の大綱)

目標1

市民とつくる住みよい自治のまちづくり

〈市民、人権、行財政運営〉

目標2

だれもが健康で生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり

〈保健、医療、子育て、福祉、社会保障〉

目標3

自然と調和し質の高い都市機能を備えたまちづくり

〈都市計画、都市施設、住宅〉

目標4

人や環境にやさしく安全・安心な生活を育むまちづくり

〈環境、危機管理、消防〉

目標5

安心して働ける環境を育む持続的で躍動するまちづくり

〈産業、雇用〉

目標6

いきいきとだれもが学べる心豊かなまちづくり

〈教育、生涯学習・文化、スポーツ、レクリエーション〉

6つのまちづくりの目標には、具体的な取り組みを進めていくための施策を位置づけています。各施策については、後期基本計画にて記載しています。

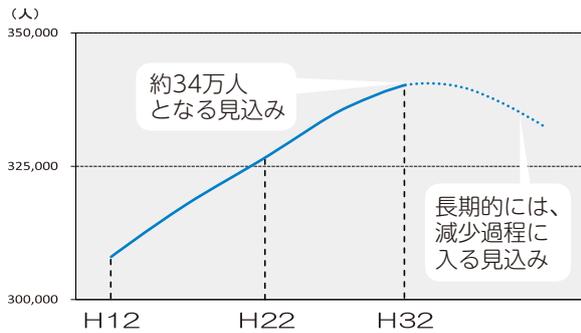
人口と土地利用

将来人口

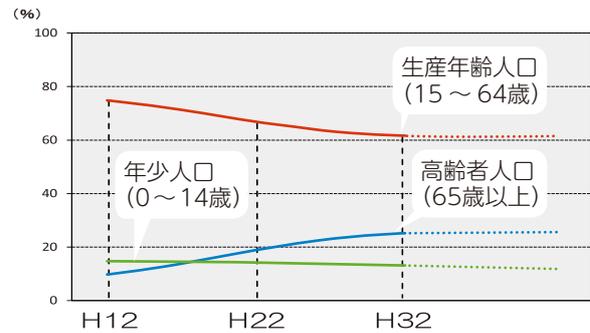
計画期間内においては、開発による緩やかな増加が一部地域で見込まれ、平成32年(2020年)には、約34万人となると見込まれます。

しかし、長期的には、人口減少社会の到来の中、本市においても緩やかに減少課程に入るものと見込まれます。

■人口の推移



■年齢3区分別割合の推移



都市構造

■中心核、副次核

中心核として越谷駅・南越谷駅周辺、副次核として越谷レイクタウン地区周辺と西大袋地区周辺を位置づけ、都市基盤の整備・充実を図ります。

■生活中心

生活中心として各駅周辺を位置づけ、人や環境にやさしく生活利便性に富んだ集約型都市構造(コンパクトシティ)*の形成を図ります。

■都市の魅力を高めるための拠点

テーマごとの求心性を持つ拠点として多様な都市機能や人が集まる場所を位置づけ、都市の魅力を高めるための機能強化や維持を図ります。

■都市軸、水と緑の軸

都市拠点を結び、人・モノの交流を促進する都市軸と水と緑の軸を位置づけ、ネットワーク軸として充実を図ります。さらに、主要幹線道路等の整備によるネットワーク形成や公共交通のサービス水準・輸送力の向上等の総合的な充実を図ります。

*集約型都市構造(コンパクトシティ)

都市の中心部に様々な機能を集め、中心市街地の活性化を目指す都市づくり。越谷市においては、各駅を中心に公共施設や商業施設が集積することで、徒歩や公共交通を利用して暮らせるまちを目指す。

土地利用

■住宅地

道路や公園等を適切に配置し、緑化の促進等による安全性が高く、緑豊かな住環境の形成に努めます。また、道路等の都市基盤施設については、適切な維持・管理による施設の長寿命化や有効活用に努めます。

■商業地

県南東部地域の中核都市としてふさわしい魅力ある商業・業務機能を確保するとともに、日常生活の利便性を考慮し、駅を中心として文化、行政などの様々な都市機能と連携した商業地の形成を図ります。

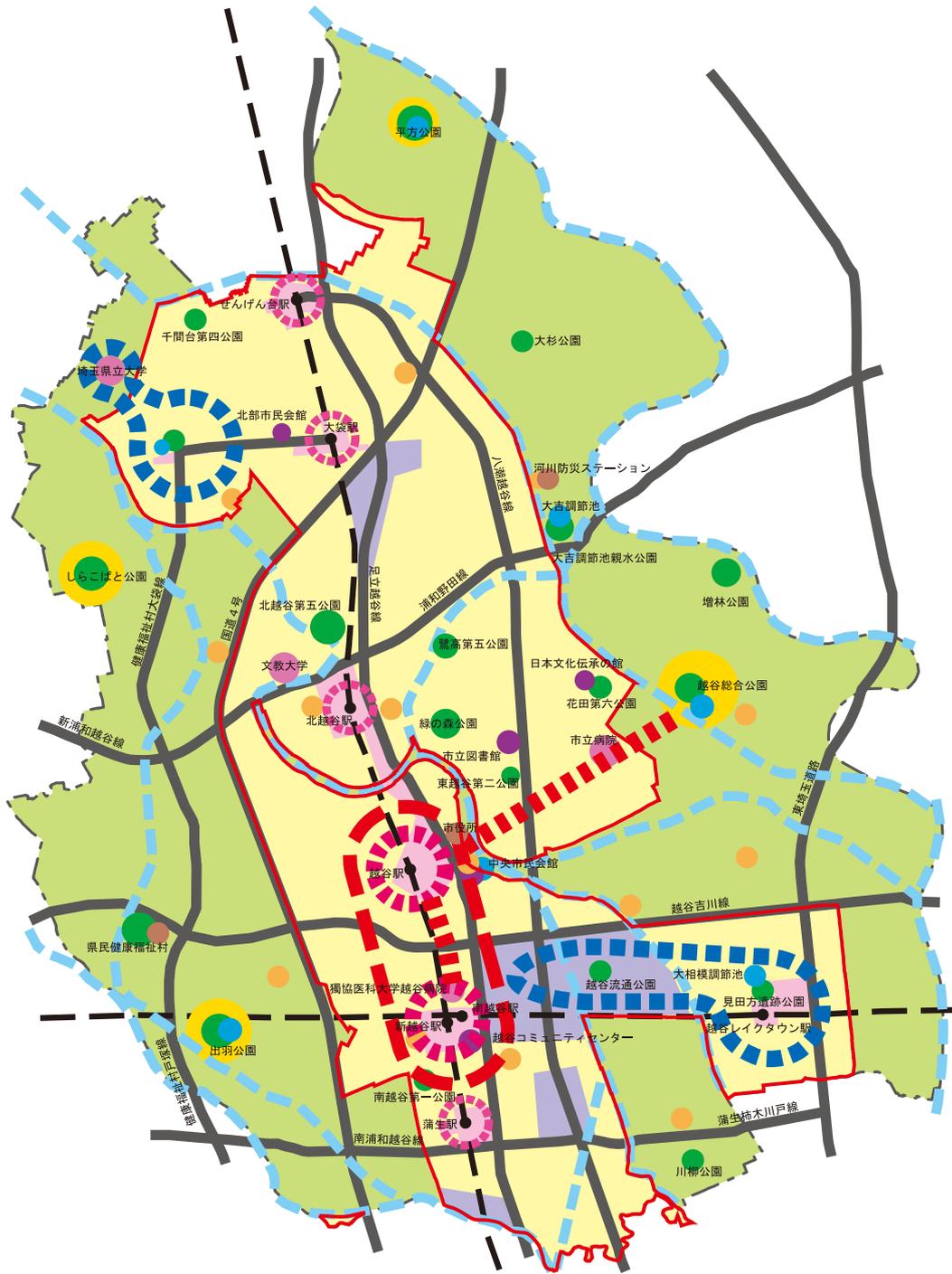
■工業・流通業務地

交通利便性等を活かしながら、周辺環境へ配慮した土地利用の形成を図ります。工場等の操業環境と住環境が混在する地域内における、住工共存型の土地利用への誘導とともに、新たな土地利用を検討し、活力向上に資する土地利用の実現に努めます。

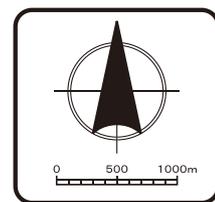
■農地および集落地

経営者の育成や農業振興策などによる農業生産機能の向上を目指すとともに、優良農地については、治水対策など多面的機能を総合的に捉えながら、守るべき農地としての位置および区域を早期に定め、積極的な保全に努めます。

■土地利用構想図



- | | | |
|-----------------|----------|---------|
| 中心核 | 親水拠点 | 都市軸 |
| 副次核 | 防災拠点 | 水と緑の軸 |
| 生活中心 | 教育・医療拠点 | 主要幹線道路等 |
| 地区拠点 | 住宅地 | 鉄道・駅 |
| スポーツ・レクリエーション拠点 | 商業地 | 市街化区域 |
| 文化拠点 | 工業・流通業務地 | 行政界 |
| 緑の拠点 | 農地および集落地 | |

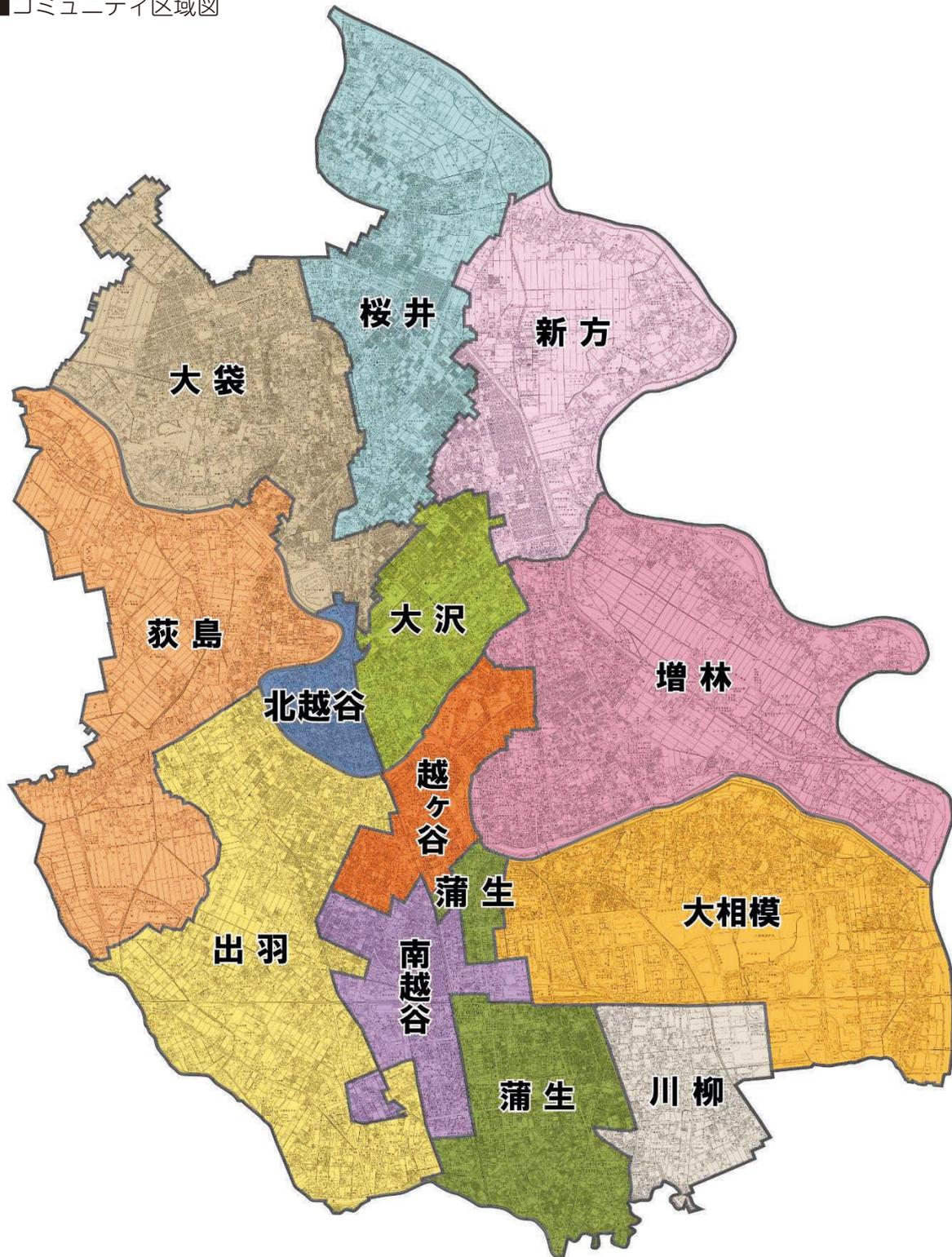


平成 21 年 (2009 年) 4 月 1 日現在

地区からのまちづくりの展開

地区別将来像は、地区ごとの「まちづくり会議」において市民が自ら描いた「地区の将来像」にかかわる提言をもとにまとめたものです。地区からのまちづくりを具体的に進めるにあたっては、この「地区の将来像」のもと、具体的なまちづくりの計画を策定し、これらの実現に向けた取り組みを行います。

■コミュニティ区域図



地区別将来像

桜井地区	環境に配慮した暮らしの普及・啓発を目指す「きれいな桜井 環境フェスタ」	
新方地区	地域の活性化と住民の交流を図る新方地区フェスタ・文化祭	
増林地区	地区の一大イベントとして、毎年多くの人でにぎわう「ときめきチャレンジまじばやし」	
大袋地区	豊かな梅の香りに誘われ、多くの人を訪れる梅林公園梅まつり	
荻島地区	『子どもを対象にしたミニ運動会で、軽スポーツによる子ども同士の仲間作りと文教大学学生との交流を図る「アメフトわくわく運動会」』	
出羽地区	出羽地区内の自治会、小中学校など、地域のみなさんが心をこめて育てた6万本のチューリップが出羽公園に集まった「出羽チューリップコミュニティフェスタ」	
蒲生地区	蒲生フェスティバルでの竹とんぼ作りを通じた三世代交流の様子	
川柳地区	花や緑を愛する豊かな心で、明るいまちづくりを目指す（緑化推進運動）	
大相模地区	春の青空を泳ぐこいのぼりと地区コミ協キャラクターひまりん「不動橋こいのぼりフェスティバル」	
大沢地区	初夏のキャンベルタウン公園	
北越谷地区	彩り豊かな街並みと、街の活性化を目指し、商店会の空き店舗のシャッターに季節の絵やお子さんの絵画を展示「街角ギャラリー」	
越ヶ谷地区	地域コミュニティづくりの一環として、子どもからお年寄りまでの幅広い年齢層の人達が世代間交流を図るよう開催される越ヶ谷コミ協まつり	
南越谷地区	南越谷地区フェスティバルにおけるオープニングの様子	

重点戦略

少子高齢化の進行や経済動向などの社会的な変化に柔軟に対応しつつ、本市の地域特性を活かしたまちづくりを進めていくため、現在の時代動向や前期基本計画の進捗状況を踏まえ、今後5年間に重点的かつ優先的に実施する施策として「子どもも高齢者も元気な未来創造プロジェクト」「地域の協働推進プロジェクト」「安全で利用しやすい公共施設等のマネジメントプロジェクト」「こしがや魅力発信プロジェクト」「安心を実感できる命と財産を守るプロジェクト」の5つを「重点戦略」と位置づけます。

▼重点戦略の背景と構成

■ 人口減少社会の到来と少子高齢化の進行

■ 地方分権の推進と市民によるまちづくり

■ 安全・安心志向の高まり

■ 環境意識の高まり

■ 経済・産業構造の変化

重点戦略1 子どもも高齢者も元気な未来創造プロジェクト

重点戦略2 地域の協働推進プロジェクト

重点戦略3 安全で利用しやすい公共施設等のマネジメントプロジェクト

重点戦略4 こしがや魅力発信プロジェクト

重点戦略5 安心を実感できる命と財産を守るプロジェクト

重点戦略1 子どもも高齢者も元気な未来創造プロジェクト

安心して子どもを産み、育てることができるよう各ライフステージに応じた子育て・教育環境の充実を図ります。また、子どもから高齢者まですべての人がいきいきと暮らせるよう健康なライフスタイルづくりを支援します。さらに、多くの人々が「越谷に住んでみたい」「住んでよかった」と思えるよう、多世代が住み続けられるまちづくりを進めていきます。

- 新保健センター整備事業
- 母子健康づくり事業
- がん検診等事業
- 子育てサロン事業
- 子ども・子育て支援給付事業
- 学童保育室整備事業
- 障がい者就労支援事業
- 老人福祉センター運営事業
- 介護支援ボランティア事業
- 認知症総合支援事業
- 特別養護老人ホーム施設整備促進事業
- 西大袋土地区画整理事業
- 地域公共交通推進事業
- 小中学校施設空調設備設置事業
- 教職員資質向上事業



子育ての悩み相談や親子の交流の場の充実を図ります
(子育てサロン)

重点戦略2 地域の協働推進プロジェクト

市民参加と協働によるまちづくりの体制を整えるとともに、市民活動の活性化に取り組み、市民が主役のまちづくりを進めます。13 地区からのまちづくりをより一層推進するとともに、地域コミュニティや市民活動団体のコーディネート機能の強化を図ります。さらに、NPOや企業等多様な主体と地域との協働を進めます。

- 市民活動支援事業
- 自治会活動推進事業
- 地区センター・公民館整備事業
- コミュニティ活動推進事業
- 地域福祉ネットワーク推進事業
- 地域ケア会議
- 公園施設維持管理事業
- 自主防災組織育成事業



市民との協働により公園等の維持管理活動が広がっています
(越谷アリタキ植物園)

重点戦略3 安全で利用しやすい公共施設等のマネジメントプロジェクト

公共施設等総合管理計画に示された公共施設等の老朽化対策に基づき、市民との情報共有を図りながら、市民が公共施設等を安全で快適に利用できるよう計画的な公共施設等のマネジメントを行います。また、公共施設等の更新等の際には、省エネルギー・省資源化に取り組みます。

- 公共施設等総合管理事業
- 道路舗装事業
- 橋りょう耐震化整備事業
- 交通安全施設整備事業
- 公共下水道管路整備事業(雨水)
- 排水機場施設維持管理事業
- 公共下水道ポンプ場改修事業(雨水)
- 公共下水道管路改修事業(汚水)
- 公共下水道ポンプ場改修事業(汚水)



災害に備えて橋長 15 メートル以上の重要な橋りょうの耐震化を計画的に進めています
(新平和橋橋梁耐震整備工事)

重点戦略4 こしがや魅力発信プロジェクト

本市の住環境や地域資源などの魅力を発掘・創造し、その魅力を市内外へ効果的に発信していくことにより、都市イメージの向上を図り、住環境として選ばれ、市民がまちへの誇りや愛着を持ち、住み続けたいと思えるまちづくりを展開します。また、農業・工業・商業などの産業活性化や雇用創出、新たな観光のコンテンツを活かし、本市を訪れる交流人口の増加を目指します。

- ホームページ・テレビ広報事業
- 道の駅整備事業
- 再生可能エネルギー推進事業
- 産業活性化推進事業
- 中心市街地活性化推進事業
- 観光推進事業
- 魅力発信事業
- 観光物産拠点施設整備事業
- 流通・工業系土地利用事業
- 地産地消推進事業
- 農地利用集積事業
- 農業従事・後継者育成事業



産業への理解を深め、地域経済との交流・連携を図ります
(こしがや産業フェスタ)

重点戦略5 安心を実感できる命と財産を守るプロジェクト

いざというときに市民の命と財産を守ることができるよう、災害対応力の強化を図るとともに、様々な災害リスクを想定し、被害を最小限に食い止める取組みを進めます。また、市民が安心を実感して暮らせるよう、救急医療体制をはじめ、保健・医療の充実を図ります。

- 夜間急患診療所運営事業
- 救急医療対策事業
- 市立病院運営事業
- 感染症対策事業
- 災害予防対策事業
- 消防署所整備事業



保健衛生体制と救急医療の充実を図ります
(平成27年4月の中核市移行に伴い設置した保健所・夜間緊急診療所)

分野別計画 (大綱 1)

市民とつくる住みよい自治のまちづくり

近年、市民のライフスタイルや価値観の変化に伴い、市民ニーズも多様化・高度化しています。

一方、地方分権の進展により地域の特性に応じた自主的なまちづくりが求められています。

こうした様々な行政需要に適切に対応していくため、市民の参加と協働による市政運営を進めるとともに、だれもが安心して生活し、豊かさを実感できるまちづくりを進めます。

また、より一層の行財政改革に努め、健全で開かれた都市経営に取り組みます。



市民参加を積極的に進めます
(第4次越谷市総合振興計画後期基本計画策定に向けて開催した市民懇談会)

施策の体系・主な指標

1-1 市民参加と協働による市政を進める

市民活動支援センター登録団体数	現況値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)	越谷市ホームページへのアクセス件数	現況値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)
	117団体	150団体		103万件/月	120万件/月

1-2 互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める

人権意識が高くなっていると感じる市民の割合 (市政世論調査)	現況値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)	平和事業来場者数 (平成20年度からの累計)	現況値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)
	41.8%	55.0%		1万2,376人	2万4,000人

1-3 健全で開かれた都市経営を進める

土地開発公社の保有残高が市の標準財政規模に占める割合	現況値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)	公共施設等総合管理計画具現化に向けたアクションプランの策定率	現況値 (平成26年度)	目標値 (平成32年度)
	29.0%	11.0%		-	100%

分野別計画 (大綱 2)

だれもが健康で生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり

少子高齢化がますます進行する中、だれもが住み慣れた地域で、いつまでも健康で安心して暮らすことができるよう、地域で支え合う福祉活動を推進するとともに、安心して子どもを産み育てることができる環境づくり、高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉サービスの充実に努めます。

また、市民一人ひとりの積極的な健康づくりを推進するとともに、地域医療体制の充実に努め、保健・医療・福祉の連携の強化を図ります。さらに、市民が互いに助け合い、支え合っているよう、社会保障制度の充実を目指します。



ふれあいサロンは、一人暮らしなどの高齢者の交流を図り、生きがいづくりの場になっています
(大袋地区のふれあいサロン)

施策の体系・主な指標

2-1

ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる

一人あたり民生委員の年間活動日数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	ふれあいサロン 開催回数 (累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	119.2 日	120 日		1,033 回	6,000 回

2-2

予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる

夜間急患診療所の 認知度	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	新保健センターの 整備数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	小児 64.3% 成人 47.0% (平成 24 年度)	85%		-	1 か所

2-3

伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる

待機児童数 (各年度 4 月 1 日)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	学童保育室施設数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	29 人	0 人		40 施設	49 施設

2-4

障がい者 (児) が生活しやすい環境をつくる

障がい者の就労者 数 (平成 23 年度 からの累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	コミュニケーション支援事業にお ける手話通訳者・要約筆記者の派 遣件数 (平成 23 年度からの累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	287 人	1,007 人		3,782 件	1 万 360 件

2-5

高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる

介護ボランティア 登録者数 (累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	特別養護老人 ホーム整備率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	253 人	2,400 人		1.23% (958 床)	1.8% (約 1,500 床)

2-6

市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る

就労決定者の割合	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	国民年金受給者数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	29.5%	35.0%		7 万 5,092 人	8 万 3,000 人

分野別計画 (大綱 3)

自然と調和し質の高い都市機能を備えたまちづくり

都市機能の集約化や公共交通の充実が求められている中、だれもが安心して暮らせる都市環境の計画的な創出に向け、自然との調和を図りながら、道路や公園、上下水道などの市民生活に密着した都市施設の整備や活気ある市街地の形成に努めるとともに、うるおいと魅力のある越谷らしい景観の形成を進めます。

公共施設をはじめとする各種施設等の整備にあたっては、ユニバーサルデザインの理念のもと、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、すべての人が利用しやすい施設づくりを推進するとともに、既存施設についても、だれもが利用しやすいようバリアフリー化を図ります。

また、公共施設の計画的な維持管理を行うことにより、経費の平準化や施設の長寿命化を図ります。



都市景観や防災上の観点から電線類を地中化し、整備された街並み
(越谷レイクタウン駅周辺)

施策の体系・主な指標

3-1

自然と調和した安全で活気ある都市をつくる

西大袋土地区画整理事業の進捗率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	橋りょうの耐震化率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	67.2%	100%		18.1%	43.1%

3-2

越谷らしい景観をつくる

電線類地中化の進捗率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	市政世論調査における景観の満足度	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	81.3%	92.9%		58.3%	70.0%

3-3

地域を支える道路・交通環境をつくる

道の駅整備に向けた候補地の決定	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	道路照明灯の設置数 (累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	-	1 か所		1 万 2,708 基	1 万 4,200 基

3-4

水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる

平方公園用地取得の進捗率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	市民との協働による公園の維持管理団体の数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	23.0%	100%		52 団体	70 団体

3-5

安全で良好な水環境をつくる

公共下水道事業 (雨水) 整備率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	コンクリート系管の長寿命化管路改修率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	66.4%	67.4%		31.8%	70.0%

3-6

安心して住むことができる住宅環境をつくる

木造住宅の耐震改修補助による工事実施件数 (平成 18 年度からの累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	84 件	132 件

分野別計画 (大綱 4)

人や環境にやさしく安全・安心な生活を育むまちづくり

大量生産、大量消費、大量廃棄の社会経済システムは、地球環境問題に大きな影響を与えています。環境意識の高まりの中、温室効果ガスの排出量の削減、資源の循環、自然との共生による持続可能なまちづくりを進めます。

また、災害や感染症などに対応する総合的な危機管理体制や消防・救急体制の充実・強化を図るとともに、防犯対策、交通安全対策や消費生活問題に取り組み、安全で安心な市民生活の確保に努めます。



消防力の充実・強化を図ります
(平成 27 年 4 月の中核市移行に伴い発足した高度救助隊)

施策の体系・主な指標

4-1 環境にやさしい持続可能な社会をつくる

市の事業・支援による太陽光発電設備の発電容量 (平成 9 年度からの累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	4,235.54kw	7,000kw
市民一人 1 日あたりのごみ排出量	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	812g	800g

家庭から排出される資源物のリサイクル率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	18.0%	25.4%

4-2 安全・安心に暮らせるまちにする

自主防災組織組織率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	89.6%	92.0%

大規模災害に備えた備蓄資器材の整備率の平均	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	80.0%	100%

4-3 生命・身体・財産を守る消防体制を整える

消防署所の整備数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	—	1 か所

市民による救命に係る応急手当実施率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	48.75%	50.0%

分野別計画 (大綱 5)

安心して働ける環境を育む持続的で躍動するまちづくり

農業振興は、市民生活の豊かさのみではなく、雇用の促進や都市環境・生活利便性の向上につながっていきます。にぎわいのある中心市街地の形成、魅力ある商店街等の整備や観光資源の創出に取り組むとともに、持続的に農業が行われる環境をつくります。

事業者の高齢化と後継者問題に取り組むとともに、都市化に伴う住工混在や農地の減少、遊休農地（耕作放棄地）の増加などの課題を改善し、継続的に事業活動を営むことのできる産業振興のまちづくりを進めます。



都市農業の新たな展開に挑戦します
(平成 27 年 1 月にオープンした越谷いちごタウン)

施策の体系・主な指標

5-1

地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る

企業の経営革新計画の承認件数 (平成 23 年度からの累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	創業を支援した数 (平成 28 年度からの累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	28 件	110 件		-	250 件

5-2

にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る

越谷駅の 1 日平均乗降者人数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	観光客入込数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	4 万 8,260 人	5 万人		5,293 万 5,926 人	5,800 万人

5-3

地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る

技術・製品のデータベースを作成した事業所数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	1,000㎡以上の工場・倉庫等の新規開発面積	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	-	200 件		-	8 ha

5-4

持続的に農業が行われる環境をつくる

農産物直売所における地場農産物の売上高 (平成 17 年度からの累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	農地利用集積地域数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	11 億 8,967 万円	23 億円		2 地域	4 地域

5-5

地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる

シルバー人材センター就業者数 (平成 23 年度からの累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	若年者等就業支援事業における相談者の就業率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	49 万 2,318 人	130 万 1,000 人		75.0%	82.5%

分野別計画 (大綱 6)

いきいきとだれもが学べる心豊かなまちづくり

社会の急速な変化の中、他と強調し、自立して生きていく人材の育成が求められています。豊かな感性や知性にあふれ、自ら学び続ける人づくりを基本に、学校、家庭、地域の強い連携のもと、教育の質を高め信頼される学校づくりに努めるとともに、自立して生きていくための基礎となる「生きる力」を育む学校教育を進めます。

また、子どもから高齢者まで生涯にわたる学びの機会を充実させるとともに、文化や芸術などにふれあう機会をつくるなど、豊かな学習環境を整え、地域文化の振興と向上に努めます。さらに、スポーツ・レクリエーション活動を充実させ、いつでも、どこでも、だれもが気軽に参加できる生涯スポーツ振興のための環境づくりを目指します。



スポーツ・レクリエーション活動の推進を図ります
(市民体育祭中央大会)

施策の体系・主な指標

6-1

生きる力を育む学校教育を進める

小中学校へのエアコン設置整備率	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	教師の授業改善評価 5段階評価のうち 上位3段階の割合	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	0%	100%		94%	98%

6-2

生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する

各種学級・講座の 参加者数 (平成 23 年度からの累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	図書館の貸出冊数 (個人)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	15万 1,046 人	37万 9,000 人		176万 5,283 冊	190 万冊

6-3

生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる

スポーツ・レクリエーション 事業への参加者数 (平成 23 年度からの累計)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)	スポーツ・レクリエーション活動 を週1回以上行う成人市民の割合 (市政世論調査)	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)
	326万 3,237 人	862 万人		39.2%	50%
スポーツボランティア 登録者数	現況値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 32 年度)			
	10 人	50 人			

市政施行

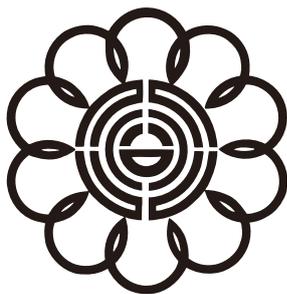
昭和 33 年 11 月 3 日 (県下 22 番目、人口 4 万 8,318 人)

自治基本条例・憲章・都市宣言

越谷市自治基本条例 (平成 21 年 6 月 19 日制定)
越谷市民憲章 (昭和 53 年 11 月 3 日制定)
越谷市子ども憲章 (平成 10 年 11 月 3 日制定)
越谷市福祉憲章 (平成 11 年 9 月 15 日制定)
安全都市宣言 (昭和 37 年 3 月制定)
スポーツ・レクリエーション都市宣言 (昭和 49 年 9 月 26 日制定)
文化都市宣言 (昭和 58 年 11 月 3 日制定)
越谷市平和都市宣言 (平成 20 年 11 月 3 日制定)

後期基本計画

市章



10 個の外輪は、合併した 2 町 8 カ村を表し、中央にカタカナの「コ」を 4 つ集めて「越」の意味、中央は「谷」の文字を図案化したものです。図案は、町村合併後、町民の皆さんから募集したもので、町章として昭和 30 年 1 月 10 日制定。その後、市制施行とともに市章となりました。

市のシンボルマーク



このマークは、市民の皆さんとともに暮らしやすいまちづくりを進めるためのシンボルとして、全国公募の中から市民投票によって選ばれました。図案は、「水郷こしがや」と、親子のシラコバトが未来にはばたく様子を表現しています。(市制 40 周年を記念し、平成 10 年 11 月 3 日選定)

市の木



ケヤキ

市制 20 周年を記念し、昭和 53 年 11 月 3 日制定

市の花



キク

市制 20 周年を記念し、昭和 53 年 11 月 3 日制定

市の鳥



シラコバト

市制 30 周年を記念し、昭和 63 年 11 月 3 日制定



水と緑と太陽に恵まれた
人と地域が支える
安全・安心・快適都市

第4次越谷市総合振興計画 (基本構想・後期基本計画)

発行 越谷市（市長公室 政策課）

〒343-8501

埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

TEL：048－964－2111(代表)

H P：http://www.city.koshigaya.saitama.jp/

製作 中央プリント株式会社

平成28年4月発行